

生きものいっせい調査 2025 について【指導用資料】

【児童のみなさんへメッセージ】

いつも「生きものいっせい調査」にご協力くださりありがとうございます。「生きものいっせい調査」は、2015 年度より沖縄県が実施している、小学 4～6 年生対象の生き物アンケート調査で、今回で 11 回目となります。

みなさんは、アオカナヘビを見たことがありますか？アオカナヘビは、昔はどこでも見つかる身近な生き物でした。でも、最近は減ってきているといわれ、今どこにどれくらいいるのか、正確なことはよく分かっていません。そこで、小学生の皆さんに協力してもらい「生きものいっせい調査」を続けてきた結果、アオカナヘビ類とキノボリトカゲの確認率（全回答数に対する見つけた回答の割合）は低くなりつつあることがわかってきました。この調査は参加する学校が毎年違うため、これだけで正確なことは言えません。でも、これからも調査を続けることで、どう変わりつつあるのかを知ることができます。

また、外来種（特定外来生物）のグリーンアノールは、沖縄県では沖縄島中南部と座間味島で見つかり、さらに広がるおそれがあります。「生きものいっせい調査」では、毎年新たな地域から見つけたという回答があります。みなさんの協力のおかげで、外来種の新たな広がりを知ることができると、専門家からも期待されています。

【先生方へ】

学校により夏休み期間が異なることから、この調査は夏休み期間にこだわらず 7 月 20 日（日）～8 月 31 日（日） を実施期間としています。夏の様々なご予定がある中とは存じますが、児童の皆さんが身近な自然に興味を持ち、自然環境について考える機会をつくるため、また沖縄県の自然保護のためにも、ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

以下に、調査の方法とポイント、および対象の生き物の分布と特徴についてまとめました。先生が児童のみなさんから質問を受けた場合などの参考にしてください。

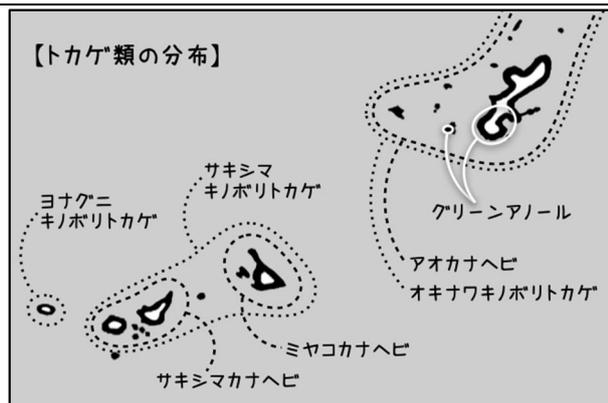
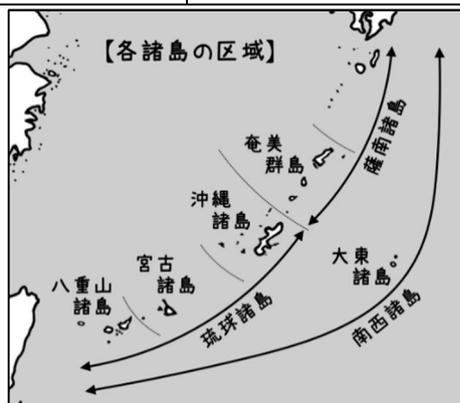
調査方法と調査のポイント

- アンケート用紙（同封のカラーの横長の紙）にある 8 種類の動植物を探して、アンケート用紙内面「生きものさがシート」に記入してください。
- 結果は校区ごとに集計するため、生き物は学校や家の近く（校区内）で探してください。
- わざわざ生き物探しに行かなくても、通学路や校庭でふだん見かける生き物を回答してもらうだけでも構いません。探しに行ける場合は、身近な公園などで探してみるようにご指導ください。
- 生き物の分布を調べるには、「見つからなかった」という情報もとても大切です。身の回りに対象の生き物がいなくても、ぜひ「見つからなかった」ことを報告してください。
- グリーンアノールは、外来生物法により特定外来生物に指定され、飼育や移動が禁止されています。危険な生き物ではありませんが、見つけたらその場で観察し、つかまえたり持ち帰ったりはしないようにご指導ください。（6 ページ参照）
- ミヤコカナヘビは県指定天然記念物に、またミヤコカナヘビとサキシマカナヘビは、国内希少野生動植物に指定され、卵も含めて捕獲、採取（譲渡や販売も含む）が原則禁止されています。貴重な生き物なので、見つけたらその場で観察し、つかまえたり持ち帰ったりはしないようにご指導ください。（7、8 ページ参照）

生きものの分布について

地域によって、見つかる生き物の種類は異なります。今回アンケートをお願いする生き物について、沖縄県内の分布情報をまとめました。校区内に対象の生き物があるかどうかの参考としてください。ただし、きちんと調べられていない種も多く、実際にはいるのに記録されていないこともあります。下表の「分布している島」に含まれていないからといって、いないとは決めつけしないでください。もしかしたら大きな発見につながるかもしれません。

対象種		分布している島
アオカナヘビ類	アオカナヘビ	沖縄島とその周辺離島（慶良間諸島、渡名喜島、粟国島、久米島など）
	ミヤコカナヘビ	宮古諸島（宮古島、池間島、大神島、伊良部島、下地島、来間島）
	サキシマカナヘビ	八重山諸島（石垣島、西表島、黒島、小浜島）
キノボリトカゲ	オキナワキノボリトカゲ	沖縄島、伊平屋島、屋我地島、古宇利島、瀬底島、渡名喜島、久米島、座間味島、阿嘉島、慶留間島、渡嘉敷島、伊計島、宮城島、平安座島、浜比嘉島、津堅島
	サキシマキノボリトカゲ	宮古諸島（宮古島、池間島、大神島、伊良部島、来間島）、八重山諸島（石垣島、西表島、小浜島）
	ヨナグニキノボリトカゲ	与那国島
グリーンアノール（外来種）		沖縄島、座間味島
オキナワスズメウリ		沖縄県全域
アメリカスズメウリ（外来種）		沖縄島、藪地島、古宇利島、久米島、西表島
スズメ		沖縄県全域
アオスジアゲハ		沖縄県全域（大東諸島以外）
タブノキ		沖縄県全域
ヒラタクワガタ類	オキナワヒラタクワガタ	沖縄島とその周辺離島
	ダイトウヒラタクワガタ	大東諸島
	サキシマヒラタクワガタ	八重山諸島



●対象種(8種類)

1. アオカナヘビ類

方言名： ジューミー、チャールー、アンダチュー、マースケーなど

概要： アオカナヘビ、サキシマカナヘビ、ミヤコカナヘビの3種がいる。アオカナヘビはトカラ列島と奄美諸島、沖縄島や久米島などに生息。サキシマカナヘビは八重山諸島、ミヤコカナヘビは宮古諸島に生息し、いずれも固有種(世界中でその地域にしかない種)。キノボリカゲやグリーンアノールより細長く、キノボリカゲより体の表面がなめらか。アオカナヘビのオスは茶色っぽい緑色で、体の側面がこげ茶色。メスと子どもは全身緑色。雌雄ともに体の横に白い線がある個体が多いが、ない個体もある。サキシマカナヘビとミヤコカナヘビは体側に白線はなく、雌雄ともに緑色。アオカナヘビは約25cm、サキシマカナヘビは約30cm、ミヤコカナヘビは約20cm。しっぽが長く、しっぽを押さえるとすぐに根元から切れてしまう。切れたしっぽはしばらく動くので、捕食者はしっぽに気を取られてしまい、本体は逃げることができる。環境省レッドリスト2020では、ミヤコカナヘビは絶滅危惧ⅠA類、サキシマカナヘビは絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。また、レッドデータおきなわ第3版では、ミヤコカナヘビは絶滅危惧ⅠB類、小浜島・黒島のサキシマカナヘビは絶滅のおそれのある地域個体群とされている。ミヤコカナヘビは2016年に、サキシマカナヘビは2020年2月に国内希少野生動植物種に指定されており、卵も含めて捕獲、採取、譲渡、販売などが原則禁止されている。ミヤコカナヘビは、2019年6月11日に県指定天然記念物に認定された。ミヤコカナヘビについては、「生きものいっせい調査」をもとに琉球大学が調査を実施し、新たな生息地の発見につながった。

食べ物： 昆虫やクモなど。

生息環境： 林縁や畑、草地、家の庭、御嶽などの木や草本の上、地面など。

似ている生き物： キノボリカゲ類、グリーンアノール

2. キノボリカゲ

方言名： グリーンバンバン、キノボリサンペー、アタク、キータンジョーなど

概要： オキナワキノボリカゲ、サキシマキノボリカゲ、ヨナグニキノボリカゲの3亜種がいる(地域によって色や形態に違いがあるが、別種にするほど大きな違いではない場合、亜種として区別する)。オキナワキノボリカゲは奄美諸島と沖縄諸島、サキシマキノボリカゲは宮古諸島と八重山諸島、ヨナグニキノボリカゲは与那国島に分布し、いずれも固有亜種。体長16~25cm。アオカナヘビよりも顔が角張って、頭や背中のうろこがギザギザ。手足やしっぽは細長い。体表はザラザラしている。体色は緑~茶色で、しっぽが緑と茶色のしましま。オス同士がケンカをするときは、腕立て伏せのような動きをする。木の幹をらせん状に登って逃げる習性がある。環境省レッドリスト2020では、オキナワキノボリカゲとヨナグニキノボリカゲが絶滅危惧Ⅱ類、サキシマキノボリカゲが準絶滅危惧に指定されている。また、レッドデータおきなわ第3版では、オキナワキノボリカゲは絶滅危惧Ⅱ類、サキシマキノボリカゲとヨナグニキノボリカゲは準絶滅危惧種に指定されている。ヨナグニキノボリカゲは、2025年2月に国内希少野生動植物種に指定されており、卵も含めて捕獲、採取、譲渡、販売などが原則禁止されている。

食べ物： 昆虫やクモなど。

生息環境： 森林や林縁部、公園、御嶽など。木の上にいることが多いが、地面にいることもある。

似ている生き物： アオカナヘビ類、グリーンアノール

3. グリーンアノール

方言名： 特になし。

概要： 体長12~20cm。背中はあざやかな緑のことが多いが、まわりに合わせて体の色を変え、茶色っぽいこともある。背中に白いすじが入ることもある。あごの下やおなかは白い。目の周りがアイシャドウのように青い。オスはのどにピンク色ののど袋(デュラップ)をもち、求愛や威嚇のために広げて見せるが、普段はたたんでいて見えない。日本の侵略的外来種ワースト100。小笠原

諸島では、本種の捕食によって希少な昆虫類が激減しているといわれている。沖縄県では今のところ沖縄島中南部と座間味島で確認されているが、沖縄島北部やその他離島への分布拡大が懸念されている。特定外来生物に指定されており、飼育や移動は禁止。

食べ物: 昆虫や小型のは虫類など。

生息環境: 林縁や民家の庭木、低木林、畑の周辺などの木の上。日中は日当たりのいい場所で日光にあたり、夜間には樹木の枝や葉の隙間などの狭いところで休息する。

似ている生き物: アオカナヘビ類、キノボリカゲ類

葉	5〜7 つに切れ込む 毛がない	角ばったハート形 おもて面に短い毛	とがったハート形 3つに切れ込む おもてうらに短い毛
花	約 1cm の黄色 花びらの先はとがる	約 1cm の白〜うす黄色 花びらの先はとがる	約 1cm の黄色 花びらの先は「3」の形
実	約 2cm の球形で白いたてじま 熟すと緑から赤	約 1.5cm のたて長 熟すと緑から黒	長さ約 1.5cm のたて長 熟すと緑から黒

4. オキナワズメウリ

方言名: ヤマゴーヤー

概要: つる性の一年生草本。直径 2cm ほどの球形の果実は緑色から赤色に熟し、白いたてじまがある。果実や根には毒があるとされる。葉は5〜7つに裂け、表面にざらつきがある。小さくて淡い黄色の花が咲く。

生息環境: 石灰岩地に多いとされる。やぶや林縁。

似ている生き物: カラスウリ類(葉の形は似るが、花は白く毛がのびる。実は大きく楕円形。)

分布拡大中！ アメリカズメウリ(外来種)

北米・中南米原産、つる性の一年生草本。他の植物に覆いかぶさるように生長する。楕円形の実は緑色から黒っぽくなり、在来種のクロミノオキナワズメウリに似る。県内では沖縄島中部で 2000 年頃に発見。近年久米島で急速に拡大、最近では西表島でも確認された。

生息環境: 畑や公園、林のまわりなど。

似ている生き物: クロミノオキナワズメウリ

見分けのポイント:

	オキナワズメウリ	クロミノオキナワズメウリ	アメリカズメウリ
つる	巻きひげがある		

5. スズメ

方言名: クラーグワー、クラー

概要: 頭は赤茶色で、背中茶色に黒のもよう、お腹はクリーム色。ほっぺたやのどが黒い。またくちばしが黒い。幼鳥は全体的に色が淡い。大きさは 14〜15cm。植物の種子、昆虫などを食べる。米をよく食べ、米蔵の近くにいるので「クラー」と呼ばれるようになったといわれている。チュン、チュチュ、チュリリなどと鳴く。

食べ物: 植物の種子、昆虫など

生息環境: 畑、公園、家・道路など。屋根のすきまなどに巣をつくる。

似ている生き物:

シマキンパラ(別名アミハラ。外来種と考えられている。11cm くらいで頭から背中茶色、胸は白地に茶色のまだらもよう。フィーフィーとかぼそい声で鳴く。畑や公園などで群れる)

セッカ(方言名チンチナー。12cm くらいで頭と背中茶色に黒のもようでお腹は白。尾が長く、上下に飛びながらヒツヒツ、チャツチャツと鳴く。草むらにすることが多く、ふつう群れない)

6. アオスジアゲハ

方言名: ハーベールー(チョウ類・ガ類の総称)

概要: 県内全域に広く分布する。前翅長は約 47mm。黒いはねに青い斑紋が1列並んで、太いたてすじに見

える。動きは俊敏で一つの花に滞在する時間も短い。吸水時は長時間一箇所にとどまる。吸水時は群れを作る傾向があり、群れをなすと警戒心が薄くなりかなり近づくことができる。

食べ物: 花蜜。幼虫期はクスノキ・タブノキの葉など。

生息環境: 森林、公園等の緑地。水辺など。

似ている生き物: ミカドアゲハ。黒いはねに青白い斑紋が3列ある。

7. タブノキ

方言名: トウムギー、トウムン、ハサーギ、ハサマーギーなど

概要: 県内全域に広く分布する。クスノキ科。広葉樹や照葉樹が茂る森の中に生育する。アオスジアゲハの幼虫の食草で、ヒラタクワガタ類が樹液に集まる。春先に出る新芽は赤い。葉は光沢があり、先が尖った長細いレモン型で葉先の近くがやや幅広い。葉の縁はゆるやかに波打つ。葉の長さ8~16cm、幅2~3.5cm。葉をちぎると、かすかに独特の香りがして、ねばねばの液が出る。春に黄緑色の小さな花をつけ、初夏に1cmの黒く丸い実がなる。

生息環境: 森林、公園の森など

似ている生き物: ホソバタブなどクスノキ科の植物。ホソバタブは新芽が赤くならず、葉はタブノキよりも全体に細く、葉の真ん中あたりが幅広い。

8. ヒラタクワガタ類

方言名: ハサマー(クワガタの総称)

概要: 県内には3亜種が分布する。

分布・形態は以下のとおり。

・沖縄島及び周辺離島

オキナワヒラタクワガタ 体長24mm~71mm

・南北大東島

ダイトウヒラタクワガタ 体長20mm~58mm

絶滅危惧Ⅱ類(環境省 RDB 2020、沖縄県 RDB

2017)

・八重山諸島

サキシマヒラタクワガタ 体長25mm~80mm

体型は平たく、体色は黒から黒褐色。オスの大アゴは太く平たい。根本にある大きな内歯が一对と、ノコギリ状の小歯を持つ。低地から山地まで広葉樹や照葉樹の森林に生息している。湿度の高い環境を好み、河川近くの林などに多く生息している。成虫は夜行性で、樹液を餌としている。アカメガシワやタブノキに多い。木をけると落ちてくるかも。

食べ物: 樹液。幼虫期は菌糸やオガクズ、腐葉土など。

生息環境: 湿った森林、畑の周りなど。

似ている生き物: ノコギリクワガタ。あごや頭の形状から判別が可能。

見分けのポイント:

オキナワヒラタクワガタ	オキナワノコギリクワガタ
大あごの根元よりに大きな内歯が一对	大あごに大きな内歯が3~4対程度並ぶ。
残りはノコギリ状の小さな内歯が並ぶ。	小さく細かな内歯はない。

●外来種の取扱いと希少生物の取扱いについて

外来種と希少生物の取り扱いについて、関係法令等との一覧表を作成しました。

対象種		特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト	鳥獣保護管理法	天然記念物	種の保存法	環境省レッドリスト2020(※1)	レッドデータおきなわ(2017年)
アオカナヘビ類	アオカナヘビ							
	ミヤコカナヘビ				県指定	国内希少野生動植物種	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧ⅠB類
	サキシマカナヘビ					国内希少野生動植物種	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅のおそれのある地域個体群(※2)
キノボリカゲ	オキナワキノボリカゲ						絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	サキシマキノボリカゲ						準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ヨナグニキノボリカゲ					国内希少野生動植物種	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
グリーンアノール(外来種)		指定	緊急対策外来種					
オキナワスズメウリ								
アメリカスズメウリ(外来種)								
スズメ				対象				
アオスジアゲハ								
タブノキ								
ヒラタクワガタ類	オキナワヒラタクワガタ							
	サキシマヒラタクワガタ							
	ダイトウヒラタクワガタ						絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類

※1: 令和7年3月現在、植物・菌類のみ、第5次レッドリストが公表されています。植物に関しては、第5次レッドリストに則って記載しています。

※2: 小浜島と黒島に生息するサキシマカナヘビは、絶滅のおそれのある地域個体群に指定されています。

【外来種について】

①特定外来生物(外来生物法)

児童に伝えたいキーワード: 持ち運んだり、ペットにはダメ!

概要: 明治時代以降に日本に入り込んだ外来生物のうち、生態系・人体・農林水産業へ被害を及ぼすまたはそのおそれがある生物。①輸入、②飼育・栽培・運搬、③野外に放つことが原則禁止。ただし、学術研究等に限って、許可を受けて輸入や飼養等を行うことができる。また、捕獲した個体ならその場で直ちに放しても構わない(いわゆるキャッチ・アンド・リリース)。

②生態系被害防止外来種リスト(生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト)

児童に伝えたいキーワード: 植えたり、外に放してはダメ!

概要: 外来生物のうち、侵略性が高く、生態系・人体・農林水産業に被害を及ぼすまたはそのおそれがある種のリスト。特定外来生物に指定されていない種も含まれ、外来種対策の基礎的情報として、適切に扱うよう注意を呼びかける対象となる。このうち、国内に定着しており、被害の深刻度が高く対策の実効性が見込める種は「緊急対策外来種」とされている。

【希少種の保護について】

①鳥獣保護管理法

児童に伝えたいキーワード: つかまえたり、持ち帰るのはやめよう! そっと観察してね

概要: 野生動物のうち、鳥類と哺乳類を対象に保護と管理をする目的で指定される。卵を含む個体の捕獲や採取、傷つける行為等が禁止。また、ペット目的の捕獲等も原則禁止される。平成 14 年度には、ネズミ・モグラ類(いえねずみ類3種を除く)と海棲哺乳類のうちニホンアシカ・アザラシ5種・ジュゴンが「鳥獣」に含まれるようになった。

②天然記念物(文化財保護法や文化財保護条例)

児童に伝えたいキーワード: つかまえたり、持ち帰るのはやめよう! そっと観察してね

概要: 「国指定天然記念物」は、国が「文化財保護法」に基づき指定する、学術上の価値が高い自然物。動植物だけでなく、鉱物・地質や地域の指定もある。そのうち、世界的・国家的に価値が高いものを「特別天然記念物」とする。文化庁長官の許可なく採集や樹木の伐採はできない。地方自治体(ここでは沖縄県)が条例で指定する「県指定天然記念物」は、現状変更(対象の生物を捕まえたり、樹木の枝を切ったり、指定区域の石や土砂を動かすなど)に教育委員会の許可が必要。

③種の保存法

児童に伝えたいキーワード: つかまえたり、持ち帰るのはやめよう! そっと観察してね

概要: 絶滅危惧種を保全する法律。国内に生息・生育する絶滅のおそれのある野生生物(レッドリストの絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類)のうち、人の影響で生存が危ぶまれる種(または亜種・変種)は「国内希少野生動植物種」に指定、販売・譲渡、捕獲・採取、殺傷・損傷、輸出入等は原則として禁止。また、ワシントン条約と二国間渡り鳥等保護条約・協定で定められた種は「国際希少野生動植物種」に指定、販売・譲渡等は原則として禁止。

④環境省レッドリスト 2020

児童に伝えたいキーワード: 環境省がチェックした貴重な生き物リスト

概要: 国内の絶滅のおそれのある野生生物種のリスト。日本の野生生物について種の絶滅の危険度を評価している。動物は、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、汽水・淡水魚類、昆虫類、陸・淡水産貝類、その他無脊椎動物の分類群ごとに、植物は、維管束植物、蘚苔類、藻類、地衣類、菌類の分類群ごとに作られ、おおむね 5 年ごとに見直される。平成 27(2015)年度から、生息状況の悪化等により再検討が必要な種について

は、必要に応じて個別に改訂するようになった。平成 24(2012)年度の第 4 次レッドリストはこれまでに 5 回改訂され、令和 7 年度 3 月現在、植物・菌類については、第 5 次レッドリストが公開されている。なお、動物については、現在評価作業を進めている最中である。

★『みんなが知りたい！ 日本の「絶滅危惧」動物がわかる本(今泉 忠明監修、2017 年、メイツ出版)では、環境省レッドリストについてイラスト入りでわかりやすく解説されています。

(<https://www.amazon.co.jp/>で上記書名を検索すると、試し読みでレッドリストに関する解説を閲覧可能)

⑤レッドデータおきなわ (2017 年)

児童に伝えたいキーワード： 沖縄県がチェックした貴重な生き物リスト

概要： 沖縄県内の絶滅のおそれのある野生生物種のリスト。最新版は平成 29(2017)年の第 3 版で、動物編と、菌類編・植物編がある。動物編は、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、甲殻類、昆虫類、クモ形類、多足類、貝類ごとに作成。菌類編・植物編は、菌類、維管束植物、蘚苔類、藻類の分類群ごとに作成。おおよそ 10 年ごとに見直される。沖縄県の地域性や独自性を配慮し、環境省レッドリストにはない沖縄県独自の種も掲載されている。

★沖縄県のホームページで公開している環境学習教材「小学生環境読本 おきなわの環境」の中に、レッドデータおきなわに載っている貴重種や外来種などの解説があります。

(<https://www.pref.okinawa.jp/kurashikankyo/kankyo/1004287/1004544/1004552.html>)

参考資料：

屋比久壮実 著「おきなわフィールドブック1 沖縄の野山を楽しむ 植物の本」アクアコーラル企画、2004 年

沖縄野鳥研究会 編著「改訂版 沖縄の野鳥」新星出版、2010 年

大川智史、林将之 著「ネイチャーガイド 琉球の樹木」文一総合出版、2016 年

芳賀靖彦 編「学研の図鑑 LIVE eco 外来生物」学研プラス、2018 年

片野田逸朗 著「琉球弧・植物図鑑」南方新社、2019 年

大淵希郷 著「学研の図鑑 LIVE(ライブ)ポケット 爬虫類・両生類」学研プラス、2020 年

梶真史 編著「学研の図鑑 LIVE(ライブ)ポケット Special 沖縄の昆虫」学研プラス、2020 年

林将之、名嘉初美 著「沖縄の身近な植物図鑑」ボーダーインク、2022 年

叶内拓哉・安部直哉・上田秀雄 著「山溪ハンディ図鑑 新 日本の野鳥」山と溪谷社、2024 年

今年度から、「生きものさがシート
(アンケート回答用紙)」は
Google フォームからも回答可能
になりました。



<https://x.gd/IOXko>